

厚木市立 清水小学校

学校長 藍原 万里子

2011年度 日産科学振興財団「理科／環境教育助成」
本年度より日産科学振興財団より理科や環境教育に対しての支援をいただくことになりました。

いこいの池 再生活動



荻野川に石を拾いに行く

「アクアフォレスト」
の関より作業の話聞く

しみずっ子元気宣言

私たちは、今、生きています。
思いやりの心をもって。
私たちは、今、生きています。
一つしかない命を大切に。
たくさんの人との「つながり」の中で。
たくさんの人との「つながり」の中で。
たくさんの温かい「愛」の中で。
たくさんの温かい「愛」の中で。
たくさんの「笑顔」をつくりたい。

私たちは、今、願っています。
私たちは、今、願っています。
世界中の全ての人々とともに、
世界中の全ての人々とともに、
安心して、元気に暮らせることを。
安心して、元気に暮らせることを。
そして、今日のこの思いが、
もっともっと広がっていくことを・・・。

清水小学校の池を作るまで

2009年度 学校環境の整備を通して、WHO「ISS」インターナショナルセーフスクールの認証を目指す。

2010年度 児童の視点から学校の環境を見直し、総合学習を通して、学校内の危険箇所を調べる。(6・5年生)

5月 児童の手で、危険な所を修理したり、学校長への学校環境改善要望書を出したりして、学校内の整備をおこなう。

一方では、命の大切さを改めて考えなおすための啓発運動として、交通事故「0」運動、自転車ヘルメットの着用の呼びかけ、自転車大会出場、防犯ブザー携帯調査等を実施し児童自身の日常生活に目を向けさせた。

6月 ISS現地調査がおこなわれ、(中国・台湾・韓国より審査員来校)

10月 「清水っ子元気宣言・・・1ページめに掲載」を作る。歩くゾーン設置
安心・安全ギャラリーの設置

11月 第2回の現地審査を受ける

18日 ISS認証式をおこなう。

12月 校庭の環境にも目を向けていく。校庭の樹木環境など

いこいの池周辺柵の修理 (ナショナルトラストみどり財団援助)

2月 いこいの池の環境を考える。

5年生 (ナショナルトラストみどり財団来校、ビオトープについての授業)

日産の環境教育財団の援助を受ける。

3月 東日本大震災の中、6年生の卒業式をおこなう。

いこいの池の再生を計画する。(雨樋・ソーラーを模索) 最終的には既存の浄化装置を使つての再生を立案する。

業者選定「アクアフォレスト」に決定。

2011年度

4月 6年生による総合の授業「ビオトープ再生計画」開始

毎年、水泳授業の前に学校のプールを使って2年生・3年生による水性昆虫の採取をおこなっている。そこからの学校の周辺の学校環境を見ると、近くの水田や荻野川に隣接していることもあって、プールの中にはたくさん生き物(ヤゴ、水虫等)を採取することができる。

このことから本校の学校周辺環境は、豊かな自然に恵まれていることがわかる。数年前にビオトープを作ったことは、このこともあってのことだと十分に理解ができる。今でも、常に水場があればそこに生きていける生き物たちがいることになる。その生き物たちが生きていける環境をあらためて学校に作ろう。(5年生の総合学習)

<2011年度 活動報告・予定>

4月 6年生のビオトープについての授業。

4月 厚木市河川ふれあい課の協力により、川の石拾いの許可をもらう

5月 6日 浄化槽電源工事

5月 7日 電源アスファルト埋設工事

5月 9日 職員作業 荻野川へ 池作りと企画・設計をはじめ。

5月10日 荻野川から、石を運ぶ。の運びとなる。

5月16日 池に溜まった水抜き。

5月10日～各クラス池に石を広げる。

計画・作業分担

6月 9日 愛甲小学校より植栽をいただく

6月10日 荻野川の植物採取・いこいの池に植栽活動

6月21日 池を5クラスによる周辺の整備

6月23日 水入れ

6月27日 池の完成式5クラスによる定点観察

7月～ 5クラスによる定点観察

7月 日 児童会・全校児童に報告

7月25日 職員研修(東京農業大学・厚木市郷土資料館協力)

5月9日職員作業

全職員で下のビニールを破らないように、古い石や土、不要な物を取り除き、池全体を深くしました。表面は乾いていても下は粘土質で作業は、困難でした。



池にあった植物は、池の周りに移植しました。養分を含んだ土も肥料となりました。



5月10日石拾い

荻野川へ石拾いに行きました。
バケツやビニール袋にいろいろな大きさの石を詰め込んで、学校まで持ち帰りました。



集めてきた石を大・中・小に分類しました。



大きい石は、川の上流、小さい石は川の下流に敷き詰めて、小さな川をイメージしながら作っていきました



5月16日 水抜き（たくさんの雨のため、池の水は）



水抜きをする前に、池に住んでいたメダカやヌマエビ、ザリガニ、ドジョウを水槽へ引っ越ししました。



バケツリレーで協力し、バケツで水をすくいました。楽しみながら作業しました。



池の水はだんだんと減ってきて、1時間の作業でほとんどの水がなくなりました。



6 月

水を抜いて池の底に石を引き詰めました。植栽の準備です



6 月 1 0 日 萩野川の植物採取・いこいの池に植栽活動



5 クラスで時間を分けて、水辺や土手に野草を採取に出かけました。

セリ、タンポポ、オオバコ、シロツメクサ、クズ、ヒメジョオンなどを採り、学校へ持ち帰りました。



いこいの池に到着し、アクアフォレストの先生と植栽の開始です。



いこいの池の周りに植えるときには、採取してきた植物がはえていた環境に近いところを選んで植栽しました。



水辺の近くものは近くに、水辺から少し離れていたものは、池から少し離れたところにと子どもたちも考えながら作業をしました。



6月21日
池を5クラスによる周辺の整備



いこいの池の周りを整備し、下学年にも安全な池になりました。

6月23日 水入れ

池に水を流し、いよいよ完成です。
生き物たちがやってきてくれるのを楽しみに、観察をしていきます。

ビオトープが完成しました

* 5月からビオトープをつくるためにたくさんのことをみんなで協力してきたから、ここまでできました。6年生の素晴らしい活動のおかげで、清水小学校に新しい環境が再生しました。6年生に感謝です。

6月27日 完成式典

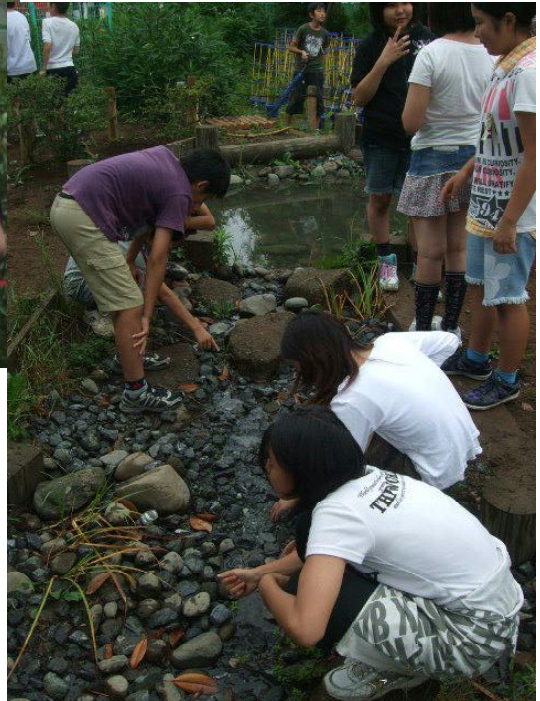


完成式典では、ビオトープ再生活動の中心となり活躍した実行委員により、進行が行われました。



校長先生と実行委員長によるテープカットの様子です。

これから、たくさんの生き物がいこいの池にやってきてくれることをみんなで願いました。



さっそく子どもたちで、池の様子を観察したり、落ち葉を拾ったりしました。

6年生は休み時間の清掃活動や定点観察を行いながら、見守っていききたいと思います。

清水小 7月のビオトープ

完成してしばらくのビオトープ



浄化槽が回り出し、上池と下池を結ぶ傾斜はせせらぎになりました。！

植栽しました！

6月25日厚木市文化会館でおこなわれて環境フェスタで、清水小学校の活動報告してきました。

その際、お話を聞いてくださった団体様より、貴重な植物をいただき、7月から池の中に植栽してきました。ご紹介します！



コウホネ

スイレン科の植物の一種。学名 *Nuphar japonicum*。

水生の多年生草本。浅い池や沼に自生する。

特徴

各地で減少が甚だしいハス。稀にため池などで見かけるが、系統維持のために保護

されている場合が多く、採集にあたっては注意・確認が必要。

アサザ

浅沙、阿佐佐、*Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze) はミツガシワサザ属の多年草。ユーラシア大陸帯地域に分布し、日本では本州やなどに生育する。

準絶滅危惧種 霞ヶ浦では植生による水質浄化のシンボリックな植物として、霞ヶ浦基金によって市民参加の植栽がられている。



(科 ア
の 温
九 州
る 水
ア サ
進 め



イヌタヌキモ

イヌタヌキモ (*Utricularia australis*) は、水生のタヌキモ属の中型の多年生植物である[1]。

水面下を浮遊し、時に黄色い花を咲かせる。

冬場は越冬芽となるので開花・結実しなくても越冬可である。越冬芽から発芽、分岐して無性生殖を行う。霞ヶ浦・利根川水系でもため池や野池にやや残存する。しかし近年残存が確認できなくなっ

た場所も多く、**レッドリストにエントリーされたように減少傾向にあることは間違いない。**

デンジソウ

クローバーに似た形の水草で、特異な形態のシダ植物である。

特徴

かつては水田雑草としても知られ、ごく普通種であったが、例によって現在では激減し、**絶滅危惧扱いである**。名前の由来は「田字草」で、四枚の葉が放射状に広がる形を漢字の田の字に見立てたものである。



ミクリ

ミクリ (*Sparganium erectum*) は単子葉植物ミクリ科ミクリ属の植物。ヤガラという別名で呼ばれることもある[1]。



特徴

花期は 6-9 月、棘のある球状の頭状花序を形成する。花には雄性花と雌性花があり、枝分かれした花序にそれぞれ数個ずつ形成する。その花序の样子が栗のイガに似るため、ミクリ（実栗）の名がある。**準絶滅危惧種**

ヘラオモダカ

ヘラオモダカ (*Alisma canaliculatum*) は、オモダカ科サジオモダカ属の植物。和名は、葉の形がへらに似ていることによる。



サンカクイ

（三角藺、学名： *Schoenoplectus triqueter*, シノニム *Scirpus triqueter*）は、単子葉植物カヤツリグサ科に属する植物。茎の断面が三角でイグサに似ている。



特徴

サンカクイの和名の由来は、三角形のイグサ（藺草）から。名前の通り、茎の断面は三角で、イグサに似た姿をしている。

セリ

セリ（芹、学名：Oenanthe javanica）とはセリ科の多年草である。



特徴

別名、シロネグサ（白根草）。湿地やあぜ道、休耕田など土壌水分の多い場所や水辺の浅瀬に生育することもある湿地性植物である。春の七草の一つである。独特の香りを持ち、春先の若い茎を食用とする。野外で採取する場合、小川のそばや水田周辺の水路沿いなどで見られるが有毒なドクゼリとの区別に配慮が必要である。ドクゼリは地下茎は太くタケノコ状のふしが

あり、横に這わず、セリ独特の芳香もないので区別できる。

ガマ・コガマ

ガマ（蒲、香蒲、学名:Typha latifolia）は、ガマ科ガマ属の多年草である。

特徴

池や沼などの水辺に生える。葉は高さ1～2mで、水中の泥の中に地下茎をのばす。夏に茎を伸ばし、円柱形の穂をつける。穂の下部は赤褐色で太く、雌花の集まりである。穂の上半分は細く、雄花が集まり、開花時には黄色い葯が一面に出る。風媒花である。雄花も雌花も花びらなどはなく、ごく単純な構造になっている。雌花は結実後は、綿クズのような冠毛を持つ微小な果実になる。この果実は風によって飛散し、水面に落ちると速やかに種子が実から放出されて水底に沈み、そこで発芽する。



ガマ属（Typha）の仲間にはガマ（学名 Typha latifolia）、ヒメガマ（学名 T. domingensis）、コガマ（学名 T. orientalis）がある。これらは日本全土の池や沼に分布し、高さ1.5～2mの多年草で、花期は6月～8月、ガマが最も早く、ヒメガマ、コガマと続くとされる。雌花序と雄花序が離れて花茎の軸が見えるのがヒメガマ、雌花序と雄花序が連続しており、雌花序の長さが10～20cmのものがガマ、6～10cmのものがコガマと識別できる。

*** ビオトープ再生事業に際してご協力をいただきました。**

財団法人 日産科学振興財団
ナショナルトラスみどり財団
株式会社 アクアフォレスト
厚木市市立愛甲小学校
厚木市ふれあい河川課